

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名	SSSボンド#700主剤 通年用
会社名	ヤブ原産業株式会社
住所	〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546
担当部署	販売営業部
作成者	技術部
電話番号	048-297-4111
FAX番号	048-290-1198
緊急連絡先	048-297-4111
推奨用途及び使用上の制限	コンクリートのひび割れ補修、モルタル浮きの注入補修
整理番号	120113R

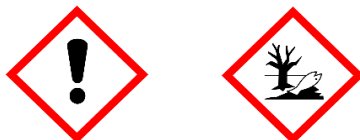
2. 危険有害性の要約

GHS分類		
健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
	皮膚感作性	区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2

※上記以外は区分に該当しないか分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	皮膚刺激 強い眼刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 水生生物に毒性 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書

【安全対策】

適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
取扱い後は手や顔をよく洗い、うがいを十分に行うこと。
環境への放出を避けること。

【応急処置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当をうけること。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。

漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しいところ/換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品、混合物の区分 : 混合物

物質の特定 成分及び含有量

物質名	化審法番号	CAS番号	含有量 (%)	備考
ビスフェノールA型 エポキシ樹脂	既存	25068-38-6	80~95	
エポキシ樹脂希釈剤	非公開	非公開	2~5	
シリカ (非晶質)	既存	67762-90-7	1~8	

※ 代表値であり、規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に写し、暖かくして安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込まないようにする。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
直ちに、全ての汚染され衣類を取り除くこと。
大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護 : 救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手に付かないように注意を払

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状の水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤 : 水 (棒状水、高圧水)

特定の危険有害性 : 不完全燃焼および熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種の炭化水素、アルデヒドおよび煤煙などの毒性ガスの発生のおそれがある。これらを閉鎖された空間内または高濃度で吸入すると極めて危険であるおそれがある。

特有の消火方法 : 可燃性のものを周囲からすばやく取り除く。
指定の消火剤を使用すること。
高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
消火活動は風上より行う。

消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用し、風上から作業する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 河川への排出などにより、環境への影響を起こさないように注意する。
側溝、下水、河川に流出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は設置する。
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に改修する。後で廃棄処理する。
吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密閉する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止方のもを使用する。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。
取扱い後は手、顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。
過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わない。
- 注意事項 : 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。

保管

- 技術的対策および保管条件 : 日光の直射を避ける。
通風のよいところに保管する。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
盗難防止のために施錠保管する。
- 注意事項 : 強酸化剤、強酸、強アルカリとの接触は避ける。
転倒、転落しないように注意する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 (ACGIH) : シリカ 10mg/m³ (TLV)、総粉塵8mg/m³ (日本産業衛生学会)
- 設備対策 : 取扱い設備は防爆型を使用する。
- 液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースをとるように設備する。
- 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
- 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等作業者が直接暴露されない設備とす
- 局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
- タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に喚起できる装置
- 取り付けること。
- 取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用する。
- 密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 眼の保護具 : 取扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚および
身体の保護具 : 取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。
また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

- 状態 : グリス状
- 色 : 白色
- 臭い : わずかな臭気
- 引火点 : 約140℃
- 比重 (密度) : 約1.14
- 水に対する溶解性 : 難溶
- 溶媒に対する溶解性 : トルエン、キシレンなどの有機溶剤によく溶ける
- n-オクタノール/水分配係数 : データなし
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点または初留点及び
沸点範囲 : データなし
- 可燃性 : あり
- 爆発下限界及び爆発
上限界/可燃限界 : データなし
- 自然発火温度 : データなし
- 分解温度 : データなし
- PH : 該当せず
- 粘度 : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 相対ガス密度 : データなし
- 粒子特性 : 該当せず

10. 安定性および反応性

化学的安定性	: 通常の条件下で安定
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下では安定
避けるべき条件	: 継続的な高温状態（50℃以上）、低温状態（5℃以下）、高温、火気、スパーク。
混触危険物質	: エポキシ樹脂硬化剤（アミン類等）、強アルカリ類、強酸類、酸化剤、重合開始触媒
危険有害な分解生成物	: 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、酸化窒素類等を発生する。
その他の危険性情報	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（LD ₅₀ ラット：11400mg/kg、区分に該当しない）
経皮	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（LD ₅₀ ウサギ：23000mg/kg、区分に該当しない）
皮膚腐食性・刺激性	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（区分2）
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（区分2A）
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（区分1）
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器・全身毒性－単回ばく露	: 分類できない
特定標的臓器・全身毒性－反復ばく露	: 分類できない
誤えん有毒性	: 分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（LC ₅₀ 魚類 96時間：1.2～2.4mg/L（区分2）
（慢性）	: ビスフェノールA型エポキシ樹脂（LC ₅₀ 魚類 96時間：1.2～2.4mg/L（区分2）
生態毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
- ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約（マニフェスト）をして処理をする。 容器、機器などを洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さないこと。 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
汚染容器および包装	: 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

共通

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

国連番号 : 3077

指針番号 : 171

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。

品名 : 環境有害性物質（個体）

国連分類 : 9

容器等級 : III

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 3077

Class : 9

Packing group : III

15. 適用法令

化審法 : 優先評価化学物質（法第2条第5項）

消防法 : 指定可燃物 可燃性固体類

労働基準法 : 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）
感作性を有するもの（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、
平8労基局長通達、基発第182号）（ビスフェノールA型エポキシ樹脂）

労働安全衛生法 : （表示・通知対象物質） シリカ
変異原性が認められた既存化学物質（法第57条の5、労働基準局長通達）
（ビスフェノールA型エポキシ樹脂）

有機溶剤中毒予防規則 : 該当しない

化学物質管理促進法 : 非該当

船舶安全法 : 有害性物質（危規則第3条危険物告示 別表第1）

航空法 : その他の有害物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

海洋汚染防止法 : 未査定物質

外国為替及び : 輸出貿易管理令別表第1の16の項、キャッチオール規制品目

外国貿易管理法

16. その他の情報

参考文献

- ・GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会）
- ・SDS用物質データベース（日本塗料工業会）
- ・化学物質安全性評価シート（化学物質評価研究機構）
- ・国際化学物質安全カード（ICSC）
- ・新エポキシ樹脂・硬化剤正しい取扱いの手引き（エポキシ樹脂技術協会）
- ・原料SDS

注意

本データシートは、作成または改定時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報など）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には、追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名 SSSボンド#700硬化剤 通年用
会社名 ヤブ原産業株式会社
住所 〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546
担当部署 販売営業部
作成者 技術部
電話番号 048-297-4111
FAX番号 048-290-1198
緊急連絡先 048-297-4111
推奨用途及び使用上の制限 コンクリートのひび割れ補修、モルタル浮きの注入補修
整理番号 120013H

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性 経口	分類できない
	急性毒性 経皮	分類できない
	急性毒性 吸入：ガス	分類できない
	：蒸気	分類できない
	：粉塵、ミスト	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2
	オゾン層への有害性	分類できない

※上記以外は区分に該当しないか分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の葉傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に毒性
長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書

【安全対策】

適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
取扱い後は手や顔をよく洗い、うがいを十分に行うこと。
環境への放出を避けること。

【応急処置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚（または髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当をうけること。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しいところ/換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品、混合物の区分 : 単一物

主成分 : ポリアミドアミン (CASNo. 68071-65-8)

物質の特定 成分及び含有量

物質名	化審法番号	CAS番号	含有量 (%)	備考
テトラエチレンペンタミン	(2) -162	112-57-2	10	分類に寄与する不純物

※ 代表値であり、規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に写し、暖かくして安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込まないようにする。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 : 直ちに、全ての汚染され衣類を脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当を受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護 : 救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手に付かないように注意を払

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 小火災 : 粉末、炭酸ガス、散水
大火災 : 粉末、炭酸ガス、耐アルコール性泡、散水
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 火災時の特定の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性のまたは毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ容器を火災区域から移動する。
可能な限り遠くから無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消化する。
容器内に水を入れてはいけない。
消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火活動は風上より行う。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
屋内では換気をしっかり行う。
屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 河川への排出などにより、環境への影響を起ささないように注意する。
河川、排水管等への汚染が生じる場合には、関係機関に連絡する。
- 封じ込めおよび浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物等は関係法規にもとづいて処置すること。
衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは狭い場所への流入を防ぐ。
容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密閉する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止方のものを使用する。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて

作業すること。

皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。

取扱い後は手、顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わない。

環境への放出を避けること。

注意事項 : 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。

保管

技術的対策及び : 日光の直射を避ける。容器を密閉して通風のよいところに保管する。

保管条件 : 火気、熱源から遠ざけて保管する。

酸化剤、酸から離して保管する。

軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、表面処理された鋼板あるいは

ステンレス容器に保管する。

注意事項 : 転倒、転落しないように注意する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度

日本産衛学会 : 設定されていない。

ACGIH : 設定されていない。

設備対策 : 取扱い設備は防爆型を使用する。

液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースをとるように設備する。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等作業者が直接暴露されない設備とす
局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。

タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に喚起できる装置
取り付けのこと。

取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

目の保護具 : 取扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚および : 取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。

身体の保護具 : また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

状態 : 液体

色 : 褐色

臭い : アミン臭

引火点 : 214℃

自然発火点 : データなし

密度及び/又は相対密度 : 0.95 (25℃)

溶解度	: 芳香族炭化水素系溶剤、アルコール系溶剤の混合溶剤に可溶
n-オクタノール/水分分配係数	: データなし
粘度	: 200～500mPa・s (25℃)
アミン価	: 435～465
融点/凝固点	: データなし
沸点または初留点及び 沸点範囲	: データなし
可燃性	: あり
爆発下限界及び爆発 上限界/可燃限界	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
PH	: 該当せず
動粘性率	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当せず

10. 安定性および反応性

化学的安定性	: 通常の条件下では安定であるが、長時間の空気との接触では変質する。
危険有害反応可能性	: アルカリ性物質であり、また分子内にアミノ基を有しており、炭酸ガス、酸性物質、エポキシ化合物およびイソシアネート化合物等と反応する。
避けるべき条件	: 物理的衝撃、過度の加熱、湿気や水分との接触
混触危険物質	: 炭酸ガス、酸性物質、エポキシ化合物およびイソシアネート化合物等。
危険有害な分解性生成物	: アミン類、アンモニア、燃焼等によるCO、Nox

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: テトラエチレンペンタミン (LD ₅₀ ラット: 2100-3990mg/kg、区分に該当しない)
経皮	: テトラエチレンペンタミン (LD ₅₀ ウサギ: 660～1260mg/kg、区分3)
吸入 (蒸気)	: 分類できない
(粉塵、ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性・刺激性	: テトラエチレンペンタミン (区分1)
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: テトラエチレンペンタミン (区分1)
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: テトラエチレンペンタミン (区分1)
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器・全身毒性—単回ばく露	: 分類できない
特定標的臓器・全身毒性—反復ばく露	: 分類できない
誤えん有毒性	: 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

急性毒性	魚類	: テトラエチレンペンタミン (LC ₅₀ (96H) 420mg/L)
	甲殻類	: テトラエチレンペンタミン (EC ₅₀ (48H) 24.1mg/L)
	藻類	: テトラエチレンペンタミン (ErC ₅₀ (72H) プセウドキルクネリエラ 0.12mg/L)
慢性毒性	魚類	: データなし
	甲殻類	: データなし
	藻類	: データなし

残留性・分解性 : テトラエチレンペンタミン 急速分解性なし

生態蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

水生環境有害性(急性) : 区分2

(慢性) : 区分2

オゾン層への有害性 : 分類できない

・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。

・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約（マニフェスト）をして処理をする。

容器、機器などを洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

共通 : 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

国連番号 : 2735

指針番号 : 153

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。

品名 : ポリアミン類（液体）（腐食性のもの）

国連分類 : 8

容器等級 : III

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 2735

Proper shipping Name : POLYAMINES,LIQUID,CORROSIVE,N.O.S

Class : 8

Packing group : III

15. 適用法令

消防法 : 危険物第4類第四石油類 危険等級III

労働安全衛生法 : 非該当

化学物質管理促進法 : 第一種指定化学物質（法第2条第7項、施工令第1条別表第1）
3.6.9-トリアザウンデカン-1.11-ジアミン（別名テトラエチレンペンタミン）政令番号第276号

毒物及び劇物取締法 : 非該当

化審法 : 第3監視化学物質（法第2条第6項）
3.6.9-トリアザウンデカン-1.11-ジアミン（別名テトラエチレンペンタミン）通し番号第166号

船舶安全法 : 腐食性物質（危規則第2、3条危険物告示別表第1）

航空法 : 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

厚生労働省労働基準局長通達 : ポリアミドアミン（基発第477号の2）（エポキシ樹脂硬化剤の主成分表示）

16. その他の情報

参考文献

- ・GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会）
- ・SDS用物質データベース（日本塗料工業会）
- ・国際化学物質安全カード（ICSC）
- ・既存化学物質安全性点検データ
- ・原料SDS

注意

本データシートは、作成または改定時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報など）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には、追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。